

委員会報告

総務常任委員会

委員長 前川 文博

総務常任委員会報告

最初に管内視察について報告いたします。

神岡図書館の移転について、神岡振興事務所の1階に移転し平成28年春の開館を目指している、耐震工事中の振興事務所1階で説明を受けました。蔵書数は現在の3万3千冊から古い本など6千冊を減らし、新しい本を3千冊購入し3万冊でスタート。順次新しい本を購入していく、3万3千冊にする。雑誌の種類も増えます。学習スペースは窓側に設置され、静かな図書館ではなく少し音がないと考えているとの説明を受けました。

考古民俗館では展示品の状況、収蔵庫の管理状況を視察しました。展示室の地下では、土器の製作などの体験ができます。他の施設にあるものを集約してここで管理していくとの説明を受けました。

消防本部では、消防無線指令台、訓練状況を視察しました。訓練状況については雨天のためDVDによる説明となりましたが、消防無線指令台については実際に119番通報から始まり、携帯電話の位置情報より通報者の位置の特定、各消防署、分署及び救急車の移動系の通信について実際に訓練として運用しているところを視察しました。

その他、飛騨古城特別支援学校、養護老人ホーム和光園の現地視察も行いました。次に管外視察について報告します。

8月25、26日に健康と福祉をテーマに、新潟県長岡市、長野県松本市の2市を訪問し説明を受けました。

長岡市では、多世代健康まちづくりとして、タニタと共同で健康づくり事業を始めました。介護や生活習慣病の予防が大きな課題であると捉え、健康な生活習慣を幼少期から身につけ、青年期、壮年期の生活習慣病のリスク軽減と、高齢者の介護予防に取り組むことで健康寿命の延伸を図ることが重要です。健康づくりの拠点「タニタカフェ」

を中心市街地に開設。タニタの最新機器を導入し、一人ひとりのきめ細やかな体内データを積み重ねます。また、ヘルシーなカフェメニューの提供を行い、体組成計で健康度チェックし管理栄養士等がアドバイスする健康相談コーナーも設置。同時に「ながおかタニタ健康クラブ」も設立され、入会金は3000円。健康ポイントをためると地元での買い物割引やスポーツ観戦チケットに交換でき、健康になればなるほど得点が得られるようになっていきます。さらに、市内を14地区に分けウォーキングや食育講座、タニタ弁当の会食など「運動」「食事」「休養」を良質でバランスよく実践でき、楽しみながら取り組めるメニューを取り揃えた健康づくりセミナーの実施をしています。

松本市では、健康寿命延伸都市・松本創造プロジェクトとして、「3Kプラン」(健康づくり・危機管理・子育て支援)を重要課題と位置づけ、さらに充実、発展させ地域経済の活性化に取り組んでいます。協会健保との連携では、企業と協定を結び生活習慣病予防

産業常任委員会
委員長 森 下 真 次

産業常任委員会報告

7月8日に行った管内視察については次のとおりです。

トマト研修施設

○3人の研修生の内2人は市外から来ており、3年目からの就農についても飛騨市内でのトマトづくりを目指しているとのことであり、この事業の目的が生かされていることを確信した。

○就農後の冬季対策で新規生産品の取り組みや就業先の確保が必要だ。

○必要な土地を確保できる工夫が必要である。

リサイクルセンター

○回収したプラ資源に汚れているものが混ざっている梱包が見受けられた。市民への定期的な指導、PRが必要ではないか。

○クリーンセンターとリサイクルセンターが隣接する合理性を評価する。

○リサイクルセンターを1か所に集約し、職員の配置、機械の設置、資源物の搬出頻度等作業効率の改善と経費の縮減が実現されている。

健診で
減らす医療費
増す寿命

対策に取り組んでいます。また、特典としてポイント制を導入し、市民の参加を促しています。企業との連携では、地元の金融機関が「健康寿命延伸 特別金利定期預金」を発売。年度毎に通算3回健康診断を受診すると温水プール利用券を発行。3年連続受診した場合にデイズニールゾート利用券などの懸賞を特典として準備。金融機関の営業活動を通じて預金者へ健康診断への受診の啓発にもつながっています。また、コンビニと連携し、店舗の駐車場で健康診断を実施しています。

両市とも健康な人が増えることにより、医療機関に通院する国保加入者が減少すること、長期的には国保会計の改善を目指しているものであり、飛騨市も取り入れられるべきものがあると認識しました。

吉城高校

○今後、どの学校でも定員割れが心配されることになるため、学校だけでなく、自治体・地域全体で考えていく必要がある。

○(YCK)プロジェクト、吉高地域キラメキと説明されましたが、地域の多くの皆さんに学校を知ってもらえる機会であり、また、生徒は自分の進路を考えるためにも良い経験になるのではないか。この活動をもっとPRすべきではないか。

神岡高校

○在校生は少ないが、それを最大限に生かした教育がされている。

○生徒たちは、われわれ議員を意識することもなく楽しんで授業を受けていた。その中であいさつをしてくれる生徒もいたことに感心した。

2校に共通

○飛騨市の大切な学校として、多くの市民に現状を知っていただき、私たちも全力で支えなければならぬ。

○定員割れがあるが、生徒及び教職員からはそのことに

よる暗いイメージは感じられなかった。むしろ明るい雰囲気での授業の進み具合が印象に残っている。

○県立高校であり、議会の中でも話題が少なく、常に授業参観は可能というような情報が伝わりにくい。関係する人たちだけの高校となり、地域の高校であることが薄れている。

また、8月10日～11日に行った管外視察では、岡山県西粟倉村「飛騨市内に設立された、(株)飛騨の森でクマは踊ると市との関係を考えるため」及び滋賀県米原市「いぶきグリーンエナジー(株)」廃材を利用した木質バイオマス発電を調査しました。

西粟倉村

○共有の森ファンド(一口5万円、最高10口)を設立し資金を集め、林業機械等の購入にあてながら、百年の森事業を進めている。

○村に専門家を置き、説明会・懇談会を頻繁に開催し、住民と一体となった取り組みを評価する。

いぶきグリーンエナジー(株)

○飛騨市においても、豊富な

森林と森林に放置された間伐材等(バイオマスエネルギー)の利用を進めるべきだ。

○廃材利用の発電は無理。豊富な水を使った小水力発電を推進するべきであり、間伐材は生活に利用すべき。

○地域資源を生かし事業を起こすことは、小さなことでも地域に活気を生み出すことを強く感じ、日ごろから地域に対してアンテナを張る必要性がある。などの意見がありました。この経験を活かし飛騨市の活性につなげていきたい。



発電プラント



山積されたチップ

12月定例会の提出議案等における各議員の賛否一覧

※これ以外の案件等は全会一致で可決等されています。

議案名等	議員名	賛成	反対	前川	中嶋	田中	洞口	野村	後藤	菅沼	内海	森下	谷口	天木	葛谷	山下	池田	籠山
				文博	国則	清安	和彦	勝憲	和正	明彦	良郎	真次	幸男	寛徳	博文	寛一	美子	
意見第2号 安全保障関連法案について慎重な運用を求める意見書	原案可決	12	2	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	-	○	○	○

※○は賛成、×は反対、棄は棄権、欠員2 ※議長は裁決に加わりません。但し可否同数の場合は議長裁決となります。

編集後記

昨年12月に「あかつき」が金星軌道投入に成功し日本初の惑星探査が始まる。また、油井亀美也さんが国際宇宙ステーションに「こうのとり」をドッキングさせるなど宇宙分野での日本の存在感が高まっている。そんな中、ストックホルムにおいてノーベル賞の授賞式が開かれた。

梶田隆章先生は前日の記者会見で「私の次の夢は神岡からもう一つノーベル賞を出すこと」と語られた。先生のお人柄からファンも多く、テレビでも世紀の大発見番組に注目が集まっている。重力波検出やハイパーカミオカンデ計画が開始し人々は宇宙の仕事みや物質の根源が解明される日を待ち望む。その波及効果で神岡町を訪れる人が増えている。今後先端科学都市構想が町にもたらす影響は計り知れず、研究と同時進行して発展できるように一日も早い整備実現が望まれる。

(後藤 和正)